

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

「家庭学習スタンダード」の積極的な活用と主体的で深い学びの推進

小野町立小野中学校

学習に向かう姿勢はおおむね身に付いており、家庭学習習慣もほとんどの生徒が定着している。課題は、計画的に家庭学習に取り組んだり、自ら課題を見付けようとする「意欲」が足りないことだった。子どもから主体性を引き出すことや自己マネジメント力の育成することを目指し、家庭学習と授業をつなぐ指導などに取り組んでいる。

取組のねらい

計画的に自分から家庭学習に取り組む自己マネジメント力を育てたい。

締切日の直前に家庭学習に取り組む生徒がこれまで多かったため、見直しをもって計画的に取り組む生徒を育てたい。

意欲を持って自分から学ぶ主体性や積極性を育てたい。

家庭学習として本時につながりのある課題を課すことで学ぶ意欲が向上し、主体性が高まり、授業の理解が深まることを目指したい。

取組の内容

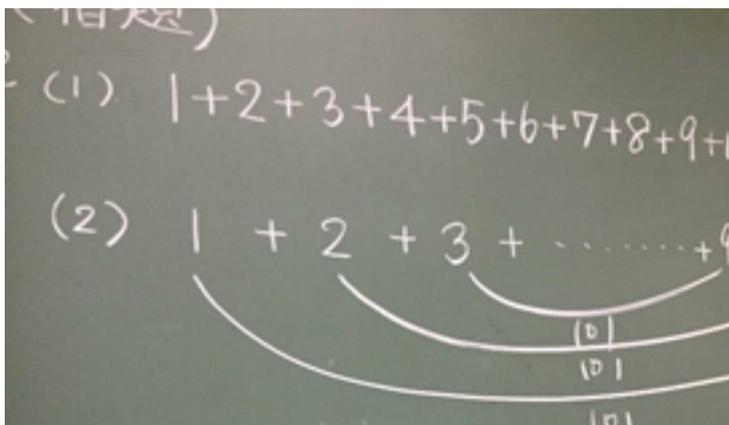
生徒が課されている家庭学習を生徒本人と学級担任や教科担任が確認

「家庭学習スタンダード」「課題集約表」を作成・提示し、家庭学習の内容と締め切りを記入する。そのことで、今与えられている課題を生徒本人と学級担任や教科担任が確認する機会を設けた。

教科	18金	提出物(期限)
学年	スタプロ	毎日
国語		7-9 P.112まで (3学期最初の授業)
社会	地理ワーク	3学期 最初の授業
数学		
理科	理科ワーク	7-9 まで (3学期最初の授業)
英語	詩のプリント ・裏側 1/1	
実技		

本時の授業に結び付く課題を出し、家庭学習の意欲を高める。

「家庭学習用課題」と称し、本時の授業に結び付く課題を提示し、家庭学習の意欲を高めるとともに、本時の内容の理解がスムーズになるように取り組んだ。



「1年数学 文字と式」：本時の課題「三角数」につながる家庭学習の提示

保護者へ学習アンケートの結果などを伝え、保護者との連携を図る。

6月と12月に行われた学習アンケートの結果を、学年通信などで保護者へ伝え、協力体制の確立と連携の強化を図った。

<h1>3 学 年 通 信</h1>		小野中学校第3学年 平成30年12月21日(金) No 3 1					
一人ひとりが大きく成長できた2学期でした							
4:あてはまる 3:どちらかといえばあてはまる 2:どちらかといえばあてはまらない 1:あてはまらない (有効人数 91人)							
質 問 項 目	3Sとの難	3気	4	3	2	1	
将来の夢や目標をもっていますか		元氣	40	37	12	2	
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかった経験はありますか		根氣	56	34	1	0	
難しいことでも、失敗を恐れずに取り組んでいますか		根氣	11	60	18	2	
学校で好きな授業はありますか	study		60	23	7	1	
友達の前で自分の考えや意見を発表することはできますか	speech	本氣	22	46	21	2	
友達の話や意見を最後まで聞くことができますか		根氣	47	40	4	0	
授業で学んだことを他の学習や普段の生活に生かしていますか	study	本氣	21	54	16	0	
家で自分で計画をたてて勉強していますか	study	根氣	10	46	29	6	
学習課題に対して、自分で考えたり、取り組んだりしていますか		本氣	15	59	17	0	
授業の中で、発表する機会がありましたか	speech		44	45	2	0	
話し合いで、相手の考えを聞いて、自分の意見を発表できましたか	speech	本氣	27	54	9	1	
自分が発表する時、上手に伝えることができよう工夫をしましたか	speech	本氣	13	48	28	2	
自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることは難しいですか	study		30	36	24	1	
自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか		元氣	22	57	12	0	
<p>82日間の長い2学期が終わります。この間、秋笠祭や秋スポなどの活動に加え、高校説明会や三者相談などを通して、本当に大きく成長することができたと思います。</p> <p>そのことは、上記のアンケート集計結果から読みとることができます。各項目とも、『良くできた・だいたい…』と感じている人が多く、特に『好きな授業がある』ことや『最後までやり遂げてうれしかったことがある』の項目が多くなっていることから、興味を持って取り組み、最後までやり遂げることでの達成感や充実感などが感じられたことが、大きな自信になっていることがわかります。また、以前校長先生からいただいた「3S」「3気」のアドバイスと関連する項目が高い評価になったことも成長を感じることができました。</p> <p>※3S sports speech study 3つの気 「元氣」「根氣」「本氣」</p>							

実践して見えてきたこと

家庭学習の可視化で自己マネジメント力の育成

「家庭学習スタンダード」「課題集約表」に課題を書き込み、可視化することで、いつまでにどれを終わらせるべきか、計画的に取り組む生徒が増えた。

また、教師も家庭学習用課題の教科と学年間のバランスを図るようになった。

家庭学習の課題を工夫し、授業をつないで学びを深めるための指導が確立

「あ、ここで宿題の内容が使われているのかあ」と感激をする生徒の様子が多く見られた。授業と家庭学習をつないだことで、生徒は主体的に課題を見付けることができた。

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

「家庭での学習・生活チェックシート」等を活用した R-PDCAサイクルの定着

小野町立小野新町小学校

家庭学習はほとんどの児童が毎日取り組み、提出することができている。しかし、家庭学習の取り組み方は様々であり、まだまだ習慣化していなかったり、課題を何となくこなしたりしている様子が見られる。そこで、家庭学習への自己マネジメント力を高めるために「家庭での学習・生活チェックシート」を活用し、自己診断させることでR-PDCAサイクルの定着を目指す。

取組のねらい

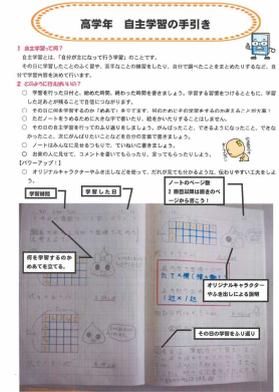
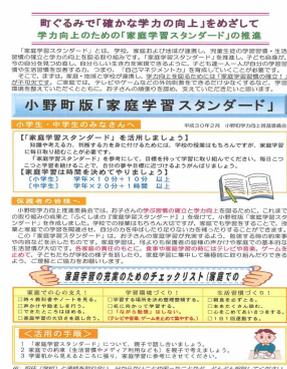
学習や生活の様子の振り返り、自己診断することを通して、その改善に向けて意欲的・主体的に取り組む力を育てたい。

「家庭学習スタンダード」には『R-PDCAサイクルを通して、自分で学習や生活を改善する力』、つまり『自己マネジメント力』が必要になるのです。」と書かれている。これからの時代を生き抜く児童にとって、自己マネジメント力はなくてはならない能力の一つだと考えられる。しかし、児童にとって当たり前のように過ごしている家庭生活であるが、これまで自分の学習や生活について振り返る機会は少なかった。そこで、自分の学習や生活の様子を振り返り、自分の現在の様子を自己診断することを通して、改善に向けてどのようなことに取り組む必要があるのかを考えさせることで、R-PDCAサイクルを定着させ、自己マネジメント力の育成を図っていききたい。

取組の内容

「小野町版家庭学習スタンダード」「自主学習の手引き」の活用

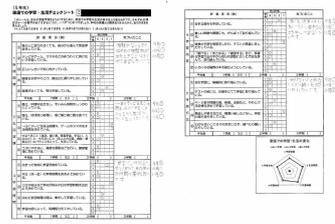
「確かな学力の向上」を目指し、家庭学習の取り組み方をまとめた「小野町版家庭学習スタンダード」を活用し、年度初めの授業参観において家庭学習の取組ませ方について周知を図った。また、児童に対しても、同様に家庭学習をどのように取り組んでいくかについて指導した。児童にとって特に悩みとなっている自主学習については、中学年と高学年の「自主学習の手引き」を作成し、どのようなノートにすればよいのか、書き方や内容について手引きを活用しながら指導をし、悩んだ時や必要な時に活用できるようにした。



【小野町版家庭学習スタンダード】 【自主学習の手引き】

「家庭での学習・生活チェックシート」を使って自己診断をする。

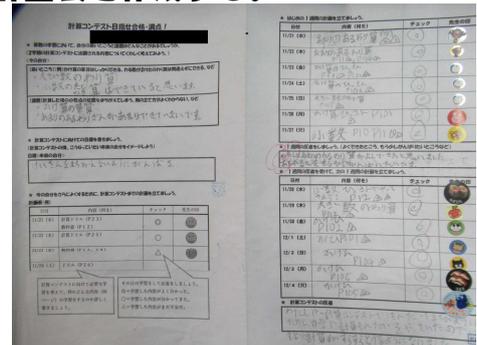
福島県教育委員会ホームページにある「家庭での学習・生活チェックシート」を使い、1学期末に1回目の自己診断を行った。一人一人の自己診断のデータを入力し、レーダーチャートを作成した。2学期の初めに1回目の診断結果を渡し、レーダーチャートを見ることで自分の現在の家庭での学習や生活の状態を知らせ、これからどのようなことを目標に頑張っていきたいかを書かせた。その目標に対し、1か月ごとに自分の行動の反省を行った。2学期末に2回目の自己診断を行い、再びレーダーチャートを作成し、3学期に2学期同様の取組を行った。



【家庭での学習生活チェックシート】

計算コンテストと関連させ、R-PDCAサイクルを意識した計画表を作成する。

本校では、毎学期末に学力向上の一環として、「計算コンテスト」を実施している。2、3学期には、この計算コンテストに対してどのように取り組んでいけばよいか計画表を作成させた。まず、プレテストの結果を受け、現在の自分のできているところ、できていないところを分析させ、そこから、計算コンテストに向けての目標を設定させた。そして、計算コンテストのテスト範囲をもとに、いつ、何の学習を行うのか1週間分の計画を立てさせた。1週間の取組の後、自分の取組の様子をチェックさせ、さらに1週間の計画を立てさせた。合わせて2週間の計画を立て、実際に学習に取り組むことでR-PDCAサイクルの定着を図った。



【計画表の取組】

実践して見えてきたこと

自主学習の取組のさらなる向上を目指す。

家庭学習についてはおおよそほとんどの児童が毎日の家庭学習にしっかりと取り組み、翌日に提出をすることができている。自主学習においては、手引きの活用が年度初めには見られていたが、だんだんと活用することが減り、学級の中でも取り組み方に差が見られるようになった。手引きだけでなく、他の友達がどんな取組をしているのか学年でノートを見合う時間を作ったり、よい取組をしているノートをコピーし、ファイルにストックさせて見本になるようにしたりしている学級など様々な取組が見られた。次年度はその中でも効果的であった取組を全校でも行っていけるようにし、自主学習への取組をさらに活性化していきたい。

目標や計画を立てることで、家庭学習への意識が変化。

「家庭での学習・生活チェックシート」の取組では、定期的に反省をすることで、自分の課題に対して熱心に取り組む児童の様子がうかがえ、1回目の診断に比べると、2回目の診断においてほぼすべての項目で増加傾向が見られた。これは自己診断した結果を見ることで、自分の状態を知り(R)、そこから目標を立て(P)、実行し(D)、定期的に反省し(C)、見直す(A)というサイクルが少しずつ定着してきた成果と考えられる。

計算コンテストに向けた計画表では、計画を立てたことで、家庭学習をする際、「何をすればいいかわからない」ということが減り、計画に沿って熱心に学習に取り組む児童の様子が見られた。児童の反省からも「計画に沿って毎日学習できたので高得点が取れた。」「成果が出て満点が取れた。」「〇〇の部分ができていないことが分かった。」など、取組を行うことで、成果が見られたり、新たに改善点を発見したりすることができたようだ。ここからもR-PDCAサイクルに意識的に取り組ませることで、何を、何のために行うのか考えて行うことが少しずつできるようになっていると考えられる。

チェックシートのさらなる活用が必要。

「家庭での学習・生活チェックシート」の課題として、項目数が多く、内容の意味理解を図ることが難しい学年も見られた。また、目標を立てさせた後、具体的にどのように取り組めば改善できるのかという指導が十分だったとはいえなかった。さらに、レーダーチャートの見方が難しく、すべての児童が十分に活用できてはいなかった。次年度では、このチェックシートを自校化し、本校の児童に合った項目を精選し、自己診断ができるようにしていきたい。また、家庭との協力を得ながら家庭での学習・生活をよりよくしていけるようにしていきたい。そのために、家庭との連携を密にし、家庭での学習・生活についての悩みや相談を受け付け、それに応えていけるようなお便りを発行していきたい。